



西北の課題「確かな学力の育成と心の教育の充実」の解決に向けて、主体的・対話的で深い学びの実現と道徳教育や生徒指導の一層の充実を 《 学校訪問を終えて 》

令和4年度の学校訪問は、下表のとおり、五所川原市内、つがる市内の学校を除く西北管内20校への計画訪問と11校への要請訪問を実施しました。五所川原市教育委員会学校教育課並びにつがる市教育委員会教育部指導課の計画訪問への同行については、15校に訪問させていただきました。

計画訪問	小学校	13校	国語1校 算数8校 道徳4校
	中学校	7校	数学2校 理科1校 外国語1校 美術1校 音楽1校 保体1校
要請訪問	小学校	5校	外国語2校 ICT1校 事業に係る研修2校
	中学校	6校	外国語4校 ICT1校 評価及び事業に係る研修1校
帯同訪問	五所川原市、つがる市の15校(小学校6校、中学校9校)		

今年度は、昨年度に続き「学びを止めない」という方針の下、コロナ対策を十分にした上で、通常どおり計画訪問を実施しました。ただ、1校については、感染拡大の影響により、訪問時間の短縮と訪問者の人数を減らしての実施となりました。訪問の際には、詳細な説明資料や学習指導案の準備、時間の調整など大変お手数をおかけしました。おかげさまで、児童生徒が真剣に授業に向かう姿、そして教職員の協働指導体制による様々な取組など、各学校の特色を生かした教育活動を見ることができました。ありがとうございました。

道徳は、全ての学校で実施していただきました。児童生徒一人一人が、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の人間としての生き方についての考えを深める学習となるよう、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習等を適切に取り入れるなどの指導方法の工夫や発問の工夫が数多く見られました。「考え、議論する道徳」の授業づくりが着実に進められ、道徳的価値について深く考える児童生徒の姿をたくさん見ることができました。

授業では、小・中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「言語活動」の実践に力を入れている学校が多く見られ、授業改善に積極的に取り組んでいることを実感しました。また、特別支援教育の視点から個に応じた指導を行ったり、T・Tや少人数指導を行ったりする学校が多く見られ、確かな学力の育成に向け、各校が工夫した取組を実施していることを実感しました。一方、単元を見通した「身に付けたい資質・能力」の計画が意識されず、話合いや学習形態の目的や意図が明確ではない授業が散見されました。今後は、目指す資質・能力を明確にし、単元全体を見通した授業づくりをお願いします。また、引き続き、学習意欲を高める課題設定の工夫や課題とまとめの整合性を意識した授業づくりをお願いします。

生徒指導に関しては、一人一人の児童生徒を大切に、関係機関とも連携を密にした丁寧な対応がなされていることを説明の中から感じました。しかし、不登校の増加と長期化が憂慮される状況にあります。不登校の解決に向け、個に応じたきめ細やかな支援策を策定することや、社会的自立に向けて進路の選択肢を広げる支援策を継続するとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを積極的に活用するなど、関係機関との連携を図るとともに、学校の組織的な対応をお願いします。

《 令和4年度青森県学習状況調査について 》

【調査結果の概要】

1 令和4年度教科別通過率の状況（％）

	小 学 校				中 学 校				
	国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語
県全体の通過率	73	62	59	56	62	51	43	42	58
西北管内の通過率	73	64	61	57	60	50	43	41	55
五所川原市	73	63	60	56	61	49	42	40	54
つがる市	76	69	64	62	60	51	44	41	58
西・北郡	70	61	59	54	59	51	44	41	54

2 西北管内の通過率と県全体の通過率との差

	小 学 校				中 学 校				
	国語	社会	算数	理科	国語	社会	数学	理科	英語
平成30年度	△ 1	3	1	1	△ 4	△ 6	△ 2	△ 4	1
令和 元 年度	△ 2	1	1	2	△ 1	0	△ 2	△ 1	2
令和 2 年度	学習に関する意識や実態の調査(質問紙調査)のみ実施								
令和 3 年度	△ 2	3	2	3	△ 3	△ 1	△ 1	0	△ 2
令和 4 年度	0	2	2	1	△ 2	△ 1	0	△ 1	△ 3

令和4年度青森県学習状況調査の結果につきましては、県教育委員会から『令和4年度学習状況調査実施報告書』が各学校にすでに送付されており、課題の把握とその対応などの活用が図られていることと思います。

西北の課題の一つである「確かな学力の育成」のためには、調査結果を分析して自校の児童生徒の学力や学習状況等の課題を明らかにするとともに、校内研修等を通して指導方法等の工夫改善に継続して取り組むことが大切です。

今後、知識及び技能の育成においては、有用な情報や条件に着目してそれを適切に使う力、文脈を捉えて文章や情報を正確に読み取る力、学習内容を関連付けて一般化する力などを身に付けさせるための指導の改善を図る必要があります。また、思考力、判断力、表現力等の育成においては、目的に応じて、複数の情報の共通点等を明らかにし、組み合わせたり関連付けたりして、整理・分析し、自分の考えをまとめ、説明する力、学習内容を日常の事象と関連付けて、考えたり、判断したりする力などを身に付けさせるためのより一層の指導の改善を図る必要があります。

《 冬季学校体育実技(スキー)講習会について 》

1月6日(金)、青森スプリング・スキーリゾートにおいて、11名の先生方が参加し、冬季学校体育実技(スキー)講習会を実施しました。経験豊富な講師陣に、スキーの技術指導やスキー教室での指導上の留意点などを丁寧に指導していただきました。参加者からは「大変丁寧に教えていただき、分かりやすかったです。楽しく滑ることができました。」「技術だけでなく、生徒への指導のポイントを様々な角度から教えていただき、とても充実した1日になりました。」などの声が寄せられました。

令和5年度は、令和6年1月5日(金)、青森スプリング・スキーリゾートでの実施が決まっています。初心者の方はもちろん、スキー指導のポイントを知りたいという方も大歓迎です。まだまだ先の話ではありますが、多くの先生方の参加をお待ちしております。次年度に向け、今から御検討願います。

校務御多忙なところ、講師を引き受けてくださった4名の先生方に感謝申し上げます。



《 ICT活用指導力向上地区研修会について 》

1月11日(水)、鶴田中学校において、板柳町、鶴田町の小・中学校に勤務する先生方を対象にICT活用指導力向上地区研修会を行いました。教科等の指導におけるICT活用の意義とその必要性への理解を深め、1人1台のタブレット端末を効果的に活用した学習指導に資するようICTを活用した模擬授業の演習を通して、教員のICT活用指導力の向上を図ることをねらいとして行いました。午前は小学校、午後は中学校の先生方を対象に行いました。参加者からは、「使ってみたいとは思っていてもなかなか踏み出せないこともあるので、いいきっかけとなりました。早速、3学期の授業で使ってみたいと思います。」「動画を作って教師のタブレットに提出するという、自分にとっては大変高度なことを教わりました。ICTについては不安が大きかったですが、大変面白い作業であり、生徒たちが楽しく授業に取り組んでいけるものであると実感しました。」などの声が寄せられました。

ICTの活用については、その特性を生かし、各教科等の特質、指導の目標や内容、児童生徒の実態などに応じて、学習過程に適切に位置付けた授業づくりを積極的に進めてくださるようお願いいたします。



《 令和4年度教育講演会について 》

- 期 日 令和5年2月6日（月）
 - 場 所 柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」
 - 参加者 小学校～35名 中学校～30名 行政関係～35名 計100名
- 〔内 容〕
- ・開会行事
 - ・講 義 I 「学校と保護者のいい関係づくり ～学校としてすべきこと、してはいけないこと～」
 - ・講 義 II 「難しくなる保護者対応をエコロジカル・マップづくりで出口を見つけよう」
- 講師 大阪大学 名誉教授 小野田 正 利 氏
- ・閉会行事

2月6日（月）、柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」において、令和4年度教育講演会を実施しました。西北管内始め、県内各地から多くの教育関係者に御出席いただきました。

講義Ⅰでは、3つのキーワードを基に、学校が保護者とのいい関係を築くための具体的なアドバイスをいただきました。また、講義Ⅱでは、事例に基づいたエコロジカル・マップづくりで問題点が見える化することによって、トラブルの本質を見抜くこと等を体験的に学ぶことができました。

参加者からは「保護者は敵対勢力ではなく、子どものよりよい成長を願う同志として、保護者をリスペクトする気持ちを忘れないということが大切だと分かりました。そのためにも、要望等に真摯に向き合うとともに、記録と分析、組織的対応が重要と感じました。」「『クレームや苦情をトラブルに発展させない』という言葉がとても印象に残りました。管理職として『法的な知識を基盤とした誠実な対応』を忘れずに、職員とチームで児童、保護者に対応していきます。」「エコロジカル・マップは、今後ぜひ活用したいと思いました。」「小野田先生のエネルギーで熱い語り口、まるでコンサートを見たような感動がありました。まとめのお話では、思わず涙が出そうでした。たくさんの方の学び、一言では言い尽くせませんが、前向きになれる講演でした。参加して本当に良かったです。」などの声が寄せられました。

小野田先生の言葉は、現場主義を貫いて研究に取り組んでこられた豊富な経験に基づいたもので、全てに重みがありました。特に、講義Ⅱのまとめでは、小野田先生の熱いメッセージが語られ、参観者全員が頷きながら、真剣に聞き入っていました。

御参加いただいた先生方、ありがとうございました。



《 初任者研修「まとめ研修」について 》

- 期 日 令和5年2月16日（木）
- 場 所 五所川原合同庁舎
- 参加者 小学校～6名 中学校～9名 計15名

〔内 容〕

・開会行事

- ・講 義 「子どもと向き合い成長を続ける教師を目指して」

西北教育事務所 指 導 主 事 菊地 和恵

・令和3年度初任者からのメッセージの紹介

- ・発 表 「初任者研修で学んだこと ～私が目指す教師像～」

- ・講 話 I 「二年目に向けてのメッセージ」 西北教育事務所 指 導 主 事 須藤 崇

社会教育主事・指導主事 遠田 隆志

- ・講 話 II 「これからの教師に期待すること」 西北教育事務所 教 育 課 長 大場 康之

・閉会行事

2月16日（木）、五所川原合同庁舎において、令和4年度の初任者研修「まとめ研修」を実施しました。今年度1年間における校内や校外での多くの学びの総まとめとして、初任者一人一人から、「初任者研修で学んだこと～私が目指す教師像～」と題して発表がありました。「課題に挑戦し続ける教師」「教科を学ぶ楽しさを教えられる教師」「生徒に信頼される教師」「子どもに寄り添い、導く教師」等のたくさんの目指す教師像が具体的に言葉にされ、1年間の学びの成果と、これからの教員生活への活力を大いに感じる時間となりました。

また、令和3年度採用の先生方からのメッセージをいただきました。メッセージには、「初任者の皆様には、これから先、大変なことも苦しいこともあると思いますが、失敗や後悔をしてそれをどう改善していくかを考えることが成長への第一歩だと思うので、たくさん経験をし、周りの先生方の素晴らしいところ、素敵なおところを見つけて、自分に合った指導の仕方や接し方を身に付けていただきたいと思います。」等の温かな言葉が綴られていました。御多忙のところ、初任者の目線から適切なアドバイスや激励を贈ってくださった7名の先生方に感謝申し上げます。

この1年間、初任者の指導・助言に当たられました校長先生始め、指導教員の皆様、示範授業等を提供してくださった先生方、関係の教員の皆様方に心より感謝申し上げます。

